

ローカル5Gを活用した院内外の次世代薬剤トレーサビリティ 及び医療従事者の業務改善の実現

実施体制 <small>(下線：代表機関)</small>	東日本電信電話(株)、群馬大学、(株)ユヤマ、ウルシステムズ(株)、PHC(株)	実施地域	群馬県前橋市 (群馬大学医学部附属病院)
実証概要	医療現場においては、医師や看護師の 人手不足 が生じている一方、医療の高度化と複雑化に伴う 医療インシデントのリスク増大 に直面。特に、 インシデント発生数全体のうち4割は薬剤に関するもの という課題が存在。 ➤ 病院にローカル5G環境を構築し、AI・薬剤自動認識装置を搭載した自立走行型ロボットによる、 患者持参薬の確認 及び 処方薬の配薬・服薬確認 の実証を実施。 ➤ 院内外の次世代薬剤トレーサビリティを通じ、 医療従事者の業務効率化 及び 安心安全な医療サービスの提供 を実現。		
技術実証	➤ 複数種類の遮蔽物が存在する 病院における建物侵入損 に着目した電波伝搬モデルの精緻化や、病院内の不感地帯改善を目的に 分散アンテナシステム を活用したエリア構築を実施。 ➤ 周波数：4.8-4.9GHz帯（100MHz） 構成：SA方式 利用環境：屋内		

患者持参薬の確認



処方薬の配薬確認



処方薬の服薬確認

